様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２７６５

研究課題名（和文）沖縄の地域的特色を生かした衣生活教材開発ー家庭科における染め織り実習教材開発ー

研究課題名（英文）Developing the teaching material for clothing-life education with contents of Okinawa specific features: Especially fo the practicum of weaving and dyeing in home economics.

研究代表者
松本　由香（Matsumoto, Yuka）

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：７０２５９２７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,000,000円

研究成果の概要（和文）：　2019年度から2023年度にかけて、沖縄の染め織りの実践をテーマに、紅型、糸づくり、植物染め、織りと編みの実践教材開発研究を、報告者自身が製作しながらおこなってきた。その成果を、琉球大学教育学部紀要に４回にわたり研究論文として公表し、2024年２月には、2023年度琉球大学研究成果公開（学術図書等刊行）促進経費を受け、『沖縄の染め織り実践講座ーたのしくチャレンジ！紅型・糸づくり・植物染め・織りと編みー』と題した書籍（株式会社東洋企画印刷）として刊行することができた。この本が、ひろく沖縄、また日本全国の人びとに、沖縄独特の染め織り文化を紹介するきっかけとなればと願っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究成果は、これまで沖縄の染め織り研究でなされてこなかった紅型、糸づくり、染め、織り、編みなどの工芸の技法を横断的に記録し、一般の人びとにわかりやすく実践しやすい解説本『沖縄の染め織り実践講座ーたのしくチャレンジ！紅型・糸づくり・植物染め・織りと編みー』（株式会社東洋企画印刷、2024年２月刊）を刊行したことである。沖縄では一人の工芸士は、紅型や芭蕉布、花織などのうち一つの工芸にのみ従事してきた。本書籍のように、一般の人びとが横断的に多様な技法を楽しめる本はかつてなく、沖縄およびひろく日本全国の人びとに沖縄文化の一端を紹介し、つくる楽しさを伝える書籍を刊行したことは、大変意義深いと考える。

研究成果の概要（英文）：　I have been studied about Okinawan dyeing and weaving, making BINGATA, yarns by hand, cloth dyed with plants, hand woven textile and basketry by making by myself. And now I am very interested in knitting culture in Okinawa.
　I reported my thesis as four series of "Using Okinawan Areal Characeteristics of Developing Teaching Material on Clothing Life", Bulletin of Faculty of Education, University of the Ryukyus, No.99, No.98, No.101 and No.103, and I published the book "Okinawan dyeing and weaving for your joyful challenge: Making BINGATA, yarns by hand, cloth dyed with plants, hand woven textile and basketry" from Toyo Kikaku Insatsu Corporation,in February 2024.
　And I hope to continue my research about Okinawan knitting culture by making baskets by myself.

研究分野：服飾文化

キーワード：沖縄　染め　織り　紅型　糸づくり　実践講座

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

沖縄県には、紅型をはじめとする多様な染織文化が存在し、それらは地域の貴重な文化的財産である。しかし地域課題として、生産者は減少、高齢化、後継者不足の傾向にあり、学校教育においても、染め織りがとりあげられることがほとんどないことがわかった。報告者が、2013 年度から 2015 年度にかけて、沖縄県の小・中・高等学校 300 校におこなったアンケート調査では、もし染め織り教材があれば教育にとり入れたいとする回答が多く得られたことから、報告者は、2015 年度から 2018 年度にかけて、科学研究費を受けて、「沖縄の染織と暮らしの持続性に関する研究―学校・市民教育に向けた衣生活教材開発―」（基盤研究©15K04505、研究代表者：松本由香、研究分担者：佐野敏行）をテーマに調査研究をおこなってきた。その成果として、沖縄の多様な染め織りの、人びとの暮らしとさまざまなかかわり方を描いた衣生活教材書籍『沖縄の染め織りと人びとの暮らし―家族と地域文化、経済とツーリズムから考える』[松本由香・佐野敏行著、琉球新報社、2020]を刊行した。このとき、報告者は、インタビューした沖縄の染め織りのつくり手の実践を見学しながら、いろいろな染め織りの技法を報告者みずから実践し、それらの方法を解説する教材ができないだろうかと考えたことが、本研究開始のきっかけとなった。

２．研究の目的

以上に述べた研究のきっかけから、家庭科等の学校教諭が教育実践をおこなって子どもが染め織りを身近に感じられるような、体験型の染め織り教材（紅型、糸づくり、植物染め、織り・編み）の開発をおこない、それらの開発した教材を、沖縄のみならず全国向けの体験型染め織り教材として、ひろく公開することを研究目的とした。

３．研究の方法

2019 年度には、琉球紅型の教材研究をおこなった。紅型の工程の整理、図案作成、型紙彫り、紗張り、型置き、色差し、隈取り、糊伏せ、地染め等の伝統的な紅型の技法から、ステンシル（型紙の上から直接布を染める技法）の簡単な型染めを、報告者が紅型作家から学んで習得した。そしてそれらの技法を、報告者の担当授業で学生に教え、その教育を繰り返しおこなうことで、技法を整理して、教材を作成した。

2020 年度には、沖縄の糸づくりの教材研究をおこなった。沖縄の染め織りの素材である糸芭蕉、苧麻、綿、絹の４種をとりあげ、それぞれ栽培、飼育から糸づくりをおこなった。糸芭蕉については、大宜味村の芭蕉布工房で糸づくりを学び、苧麻については、宮古島の宮古織物事業協同組合で、糸づくりを学んだ。また綿については、奈良県から和綿の種を調達し、教育学部内の畑で栽培、収穫して綿糸づくりの方法を研究した。これらの植物繊維から成る糸づくりを、報告者の授業で、学生に実践してもらい、技法を整理して、教材を作成した。また絹については、長野県から蚕の孵化したばかりの幼虫を入手し、報告者が飼育して繭ができるまでを観察し、また繭から糸を採る方法を実践して、教材を作成した。

2021 年度には、沖縄の染めの教材研究をおこなった。沖縄の染め織りに深くかかわる琉球藍、福木、紅花、月桃、シャリンバイの染めを実践して教材を作成した。琉球藍は、報告者が教育学部内の畑で栽培し、葉を収穫して発酵させて藍染めをおこなった。福木とシャリンバイ染めについては、大宜味村の芭蕉布工房で染色の方法を学び、報告者が担当する授業で学生と実践して、それらの技法を整理した。紅花については、多良間島でもらった種から栽培しようとしたが、育たず、染料品店で入手した紅花の花弁をつかって染め方を研究した。月桃は、茎・葉と、根で、黄色系とピンク系という違った色に染まることがわかった。これらの染めは、やはり報告者の授業で、学生に実践してもらい、教材化のデータとした。

2022 年度には、沖縄の織り・編みの教材研究をテーマに研究をおこなった。織りについては、高機をつかわず織る伊波メンサー織りの技法を参考に、数本の木や竹の棒を組み合わせて織るなどの方法の教材を作成した。編みについて、沖縄の身近な植物である、月桃、竹、マーニ（ヤシ科）、アダン（タコノキ科）の植物をとりあげ、主にかごづくりの方法を研究した。アダンと月桃については、宮古島市体験工芸村、宮古島市のアダン工房で、また月桃のかごについては、豊見城市のかご編み講師に学び、竹とマーニのかごづくりについては、沖縄市の北谷竹細工工房で学んだ。そしてそれらの技法を整理して、それぞれの教材を作成した。これらの織りや編みの方法については、報告者の担当する授業で、学生に教えて実践することで、教材研究に生かし、教材を精選することにつながった。

2023 年度には、とくに沖縄の編みについての教材研究をおこなった。沖縄の染めや織りについては、沖縄の伝統工芸として古くから着目されてきているが、編みについては、沖縄独特の文化があるにもかかわらず、上江洲均の研究（『沖縄の民具・考古民族叢書 12』慶友社 1980 年）以来、見あたらないことから、調査研究されてきていないことが、本研究を通じてわかったことである。沖縄県内各地の博物館の収蔵品には、古い民具が展示されているのをよく見かけるが、ほとんど整理されることなく、昔の生活の紹介のコーナーに雑然と置かれ、名前の記載のない展示品も多い。一方で、沖縄で昔つくられていた編みによる生活用具の技法を知ると、日本本土にはない、沖縄独特の技法や工夫があることがわかった。そこでとくに沖縄で昔からよくつかわれてきた竹と茅をつかった生活用具のつくり方を学び、それらの技法を整理して教材化することをおこなってきている。

４．研究成果

以上のように整理・開発した教材の内容は、沖縄独自の地域文化である紅型、糸づくり、植物染め、織り・編みの歴史・技法および実践方法の紹介である。読者が染め織りの実践をしながら、地域の歴史・文化を再認識し理解することで、読者の暮らしをより豊かにする意義をもつと考える。この教材の内容は、2024 年２月に、株式会社東洋企画印刷から、『沖縄の染め織り実践講座―たのしくチャレンジ！紅型・糸づくり・植物染め・織りと編み―』と題して、書籍として刊行することができた。本刊行物は、沖縄の染め織りの特徴を体感できる実践教科書としての意義をもつとともに、これまで沖縄県内および日本国内、また国外においても書籍などで記述されることのなかった沖縄の紅型、糸づくり、染め、織り・編みの技法を横断的に、鳥瞰してまとめた記録として、さらに伝統的な技法を理解するヒントになると考えられ、報告者は、学術的価値を有すると考えている。その目次を次に示す。

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　紅型
　１．琉球紅型の歴史
　　(1) 由来と特徴
　　(2) 古琉球時代の紅型
　　(3) 近世琉球時代以降の紅型
　２．琉球紅型の技法
　３．紅型の実践
　　(1) 紅型染め
　　(2) 摺り込み
　　(3) 描き絵
　４．紅型実践のポイント
Ⅲ　沖縄の糸づくり
　１．糸と布をつくる素材の特徴
　２．糸づくりの代表的な素材の特徴
　　(1) 苧麻
　　(2) 芭蕉
　　(3) 綿
　　(4) 絹
　３．糸づくりの実践
　　(1) 苧麻
　　(2) 芭蕉
　　(3) 綿
　　(4) 絹
　４．糸づくりのポイント

Ⅳ　沖縄の染め

１．染めの材料とその歴史

２．染めの実践

(1) 藍染め

(2) 福木染め

(3) テカチ染め

(4) 月桃染め

(5) 草花プリント

３．染めのポイント

(1) 媒染処理

(2) 濃染処理など

Ⅴ　沖縄の織りと編み

１．沖縄の織りと編みの歴史

(1) 沖縄の織りの歴史

(2) 沖縄の編みの歴史

２．織りと編みの代表的な技法

(1) 織りの技法

(2) 編みの技法

３．織りと編みの実践

(1) 織り

(2) 編み

４．織りと編みのポイント

Ⅵ　おわりに

引用・参考文献

報告者は、現在、とくに沖縄の編みの文化に興味をもっており、今後、竹細工、月桃や茅のかご編みなどを調査し、各地に残る民芸品調査、および製作者への聞き取りをおこない、それらの内容を記録していきたいと考えている。そして沖縄に昔からあった生活雑貨づくりを、実際におこなうことで、技術を体験・習得し、沖縄の編みの文化の保存に貢献していきたいと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 松本　由香	４．巻 103
２．論文標題 沖縄の地域的特色を活かした衣生活教材開発―織りと編みの教材研究―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	６．最初と最後の頁 173-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 松本　由香	４．巻 101
２．論文標題 沖縄の地域的特色を活かした衣生活教材開発―染めの教材研究―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	６．最初と最後の頁 103-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 松本由香	４．巻 99集
２．論文標題 沖縄の地域的特色を活かした衣生活教材開発―沖縄の糸づくり教材研究―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	６．最初と最後の頁 9,25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yuka MATSUMOTO	４．巻 2020
２．論文標題 Ways of Life and Works of Weaving and Dyeing in Okinawa: Toward a Possible Solution of Carry on Concern	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Textile Society of America Symposium Proceedings 2020	６．最初と最後の頁 1,15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松本　由香	4．巻 98集
2．論文標題 沖縄の地域的特色を活かした衣生活教材化開発―琉球紅型の教材研究―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 琉球大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 59,75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松本由香・佐野敏行	4．巻 69
2．論文標題 沖縄の染め織りと暮らしの持続性に関する研究―地域生活、地域文化、経済性の探求の視点から―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 風俗史学	6．最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 松本由香
2．発表標題 沖縄の染め織りの風俗史学的研究―暮らしの視座と実践から―
3．学会等名 第61回日本風俗史学会大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 MATSUMOTO, Yuka
2．発表標題 Ways of Life and Works of Weaving and Dyeing in Okinawa: Toward a Possible Solution of Carry on Concern.
3．学会等名 Textile Society of America（国際学会）
4．発表年 2020年

〔図書〕　計2件

1．著者名 松本　由香	4．発行年 2024年
2．出版社 株式会社東洋企画印刷	5．総ページ数 79
3．書名 沖縄の染め織り実践講座―たのしくチャレンジ！紅型・糸づくり・植物染め・織りと編み	

1．著者名 松本由香・佐野敏行	4．発行年 2020年
2．出版社 琉球新報社	5．総ページ数 215
3．書名 沖縄の染め織りと人びとの暮らし―家族と地域文化、経済とツーリズムから考える―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関